令和５年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和南高等学校）　（学校番号　s 51）

目指す学校像	文武において高きに挑み、深く学び、地域社会・国際社会に貢献することができる「知・徳・体」の調和がとれた人材を育成する学校
重点目標	1　自己実現…主体的に学習して自己実現を図る生徒を育成する教育体制の構築を推進 2　文武自考…主体的に取り組む生徒を育成するため活力と特色ある教育活動を推進 3　情報発信…ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙとして積極的に情報発信を行い信頼される学校づくりを推進

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

※重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価（２月１日現在）			実施日　令和６年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】 進学重視型単位制、55分授業、週34単位、年8回の土曜授業というｼｽﾃﾑが定着。現役4年制大学進学率は10年連続80％を超えており、昨年度は88.9％(過去10年で最高)。 【課題】 ・長いｺﾛﾅ禍を経て現役生は安全志向が強かったからか、昨年度より学校推薦型選抜の比率が高まった。その結果、現役4年制大学合格数は減となった。 ・より高みを目指し第一志望をあきらめない生徒の更なる育成が課題である。 ・共通ﾃｽﾄや大学受験問題でも、思考力を必要とするものが多く出題されている。高校時代の学びが、より一層、主体的･対話的で深い学びになるよう、不断の授業改善を行う必要がある。 ・一方、大学入試では総合型選抜が年々増加している。大学のｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰを探究し、総合型選抜での受験も視野にいれていくことも必要である。	授業力向上による確かな学力の向上	・ICTを活用した「個別最適な」「協働的な」「探究的な」学びに全教職員が取り組み、授業ｱﾝｹｰﾄで成果を個々に確認、教科研修等も実施 ・学校生活ｱﾝｹｰﾄの改善と実施 ・総合的な探究の時間や各教科の授業で探究活動を推進	・指導力向上研修を年3回以上実施 ・学期毎の生徒授業評価の実施 ・ICTを活用した「個別最適な」「協働的な」「探究的な」学びを9割以上の教職員が実施 ・全教職員が観点別評価を深く理解し指導と評価が一体化 ・生徒･保護者ｱﾝｹｰﾄの内容を改善し実施、満足度8割以上 ・総探の発展的再構築 ・一人ひとりの多様な幸せを大切にする個別最適な学びの実施				
		着実なｷｬﾘｱ教育の推進と進路実現に向けた計画的な取組	・生徒･保護者へ大学進学情報提供の充実 ・英検等の合格率向上 ・共通ﾃｽﾄ受験啓発 ・学習支援ｻｰﾋﾞｽの効果的な活用 ・成年年齢引下げ2年目のｷｬﾘｱ教育	・生徒･保護者へ大学進学情報提供回数の向上 ・模試分析会の回数と共有状況 ・生徒の1/3が英検2級以上保持 ・大学入学共通ﾃｽﾄ受験者9割 ・学習支援ｸﾗｳﾄﾞｻｰﾋﾞｽの利用状況向上と効果的な活用(個別最適化) ・模擬投票の実施と生徒への啓発				
2	【現状】 生徒の学校行事に意欲度は95.5％、部活動が盛んである意識度98.8％と非常に高い。多様な探究ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの多くがｺﾛﾅ3年目で復活してきた。 【課題】 ・ｺﾛﾅ禍では部分的に生徒主体で活発に動く取組が減少した。授業、生徒会･委員会活動、部活動、学校行事など全ての活動に生徒の主体的な活動を積極的に組み入れ、民主主義を担うｴｰｼﾞｪﾝｼｰを育成する必要がある。 ・総合的な探究の時間を１年次より再構築し、課題設定･解決能力を育む活動に深化させる。	主体的に取り組む生徒を育成するための特色ある教育活動	・1年次から「総探の時間」を再構築、今後のﾓﾃﾞﾙ作成 ・ｺﾛﾅ禍における探究ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ一層の充実 ・生徒の主体性を引き出す学校行事の取組	・教科の授業においても生徒が主体的に活動する場面を設定 ・ICTを活用した「総探の時間」における探究活動の実践 ・探究ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑへの参加生徒数向上 ・生徒の主体性を生かした体育祭･文化祭等の学校行事の実施				
		部活動の充実と安心安全の確保	・生徒の主体性を引き出し、達成感を感じさせる部活動の取組	・生徒の部活動への加入率と満足度の更なる向上 ・生徒主体の活動を一層推進 ・保護者費用負担の軽減を図りつつ効果的な活動を展開 ・各部活動の大会等の結果向上で、中学生に大きくPR				
3	【現状】 地域社会と連携したｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙとして徐々に以前の活動が戻りつつある。 【課題】 ・本校教育活動への理解をさらに深めてもらうため、より一層の地域に開かれた信頼される学校づくりの推進が必要 ・生徒募集を見据えた更なる情報発信の充実を推進 ・生徒募集活動の活発化	ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙとして開かれた学校づくり	・近隣小中、辻地区、市及び南区との連携推進 ・学校運営協議会との連携･協働の充実	・地域との連携方法と回数の向上 ・学校運営協議会を通して地域と有益な連携･協働の実施の有無 ・学校施設開放180回超				
		積極的な情報発信	・計画的な学校広報活動の推進 ・学校HPの更新や新たな学校情報発信 ・進学ﾌｪｱ等への積極的な参加	・学校広報活動の回数増加 ・中学校見学会受入回数の増加 ・志願倍率過去3年間平均1.3倍超 ・学校HP更新回数 ・生徒への安定した情報発信 ・保護者へは安定したﾒｰﾙ配信 ・学校説明会を工夫 ・近隣塾等へ情報発信				